

# 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路（伊豆湘南道路）に関する委員会 第2回

## 1 日時

令和5年3月24日（金曜日） 10時00分から11時00分

## 2 場所

新横浜ホール第9会議室（横浜市港北区新横浜3-19-11）

## 3 出席委員

岩田 孝仁 静岡大学 特任教授

大久保 あかね 静岡県立大学 教授

奥 真美 東京都立大学 教授

◎中村 英樹 名古屋大学 教授

藤山 知加子 横浜国立大学 准教授

二村 真理子 東京女子大学 教授

【五十音順：敬称略】◎は委員長

## 議 事 概 要

### 政策目標の設定について

- 「災害に強い道路網」と「安全で快適な走行環境」の両方に安全の要素が入っているが、それぞれの意味合いの違いがわかるようにすべき。

⇒ 異常気象等に対する安全の意味合いと、交通の安全に対する意味合いの違いを明確にするため、別紙のとおり「安全で快適な走行環境」に「事故が少ない」という語句を追加することで了承された。

### 今後の検討の進め方（案）について

#### <広域道路ネットワークにおける位置づけの整理>

- 広域道路ネットワークにおける位置づけを整理するにあたっては、富士山噴火時は、溶岩流だけでなく火山灰の影響も考慮した方がよい。また、東名や新東名などが、維持管理工事や事故によって通行止めとなり迂回が必要になることを視野に入れるべき。

#### <技術的な課題等への対応>

- 伊豆湘南道路が構想される地域は、地形が複雑であり、技術的にも難しい事業となることが想定される。整備手法のあり方や事業

主体は大きな問題であることから、早い段階で議論を始めた方がよい。

- 長大橋やトンネルなど大規模な構造物が想定されることから、施工時等の安全性を確保するため、地質・地盤リスクマネジメントをしっかりとやっていくべき。

<ルート帯が想定されるエリアにおける配慮すべき事項の把握>

- アンケートで環境に関する意見があったことも踏まえ、法令に基づく環境影響評価の対象にならない場合でも、自主的に法令に準じたフルアセスに近い調査を行ってほしい。その際、「景観」も評価項目とすべき。
- 温泉の源泉は、詳細がわかっていないことが多い。この地域で源泉等の調査を行うことは、他の地域の良いモデルになると思う。

以上